

初のW杯へ 肉体強化中

スノーボードアルペン 白馬の大島選手

全日本スキー連盟のスノーボードアルペン強化指定選手で白馬村の松本大3年大島ひなのさん(20)は、12月に初出場するワールドカップ(W杯)に照準を合わせ、肉体強化を図っている。小柄ながらも世界のトッププレーヤーと肩を並べるため、10月からの雪上練習を控え、トレーニングに余念がない。

18日、松本市笹部のトレーニングジム「メディカルフィットネス アルクラール」に大島さんの姿があった。10月に始まるW杯の開催地、中国での雪上練習を念頭に、滑る際に軸足の尻の筋肉を意識する目的でゴムバンドなどを使った訓練を実施。「これは足にくる」と笑顔を見せた。

名古屋市出身。ロードバイク選手の父親と、自然に囲まれた環境での子育てを

望んだ母親の意向で、2歳の時に白馬村に移住した。小学3年の頃から本格的に大会に出場するようになった。オフシーズンは松本大や松本市内のジムなどで、冬季は白馬村のスキー場で練習している。

ノルディックスキー複合男子の渡部暁斗さんや弟の善斗さん、フリースタイルスキー女子モーグルの上村愛子さんら先輩オリンピックは白馬小学校の先輩に当



来季に向けてトレーニングを積む大島さん(左)

2月に開催された北海道選手権での滑走



決勝T進出が目標「思い切りの良さ」武器に挑む

たり「遠いけど近い存在」。白馬は五輪と強くながっている。先輩への憧れが競技者となる原動力になった。

現在身長153センチで体重約45キロ。アルペン種目の選手の中でも小柄で、痩せ形の海外選手と比べても10キロ以上は軽い。速いタイムを出すには体重と筋力は不可欠で、夏場は徹底して体重の増加と筋力アップに向け上半身を中心にウエイトトレーニングをこなしてきた。「体重は無理なく順調に増えている」と自信をにじませる。

スノーボードアルペンはスキーのアルペンのように傾斜のあるコースを滑り降り、タイムを競う競技。コースに並べられた旗門を正確に通過する。最大の速さで時速50〜60キロ程度になるという。

大島さんの強みは転倒のリスクを恐れずに滑る「思い切りの良さ」。これを武器に昨季は北海道選手権で優勝、全日本選手権で2連覇しアジアンカップ総合優勝を果たした。来季のW杯では初めて世界のトッププレーヤーと相まみえ、決勝トーナメント進出を目標に掲げる。

転倒を恐れない滑りは白馬村で育ったことと関係している。幼い頃からスキー場に通い「競技と遊びの境もなく滑っていた」。練習場の白馬八方尾根スキー場は国内有数のコース数を誇り、傾斜の緩急や起伏など変化に富む。あらゆる状況で滑ってきたことで「どんなコースでもびびらない度胸が身に付いた」。

最終目標は2030年のフランス・アルプス地方で開催される冬季五輪出場だ。地元の後輩らを勇気づけたい思いから、自身のウェブサイトをSNS(交流サイト)で試合結果や感想をつづっている。「ゆくゆくは次世代の憧れの存在になつていきたい」と意気込む。